

飯舘 百景

春の幕開け

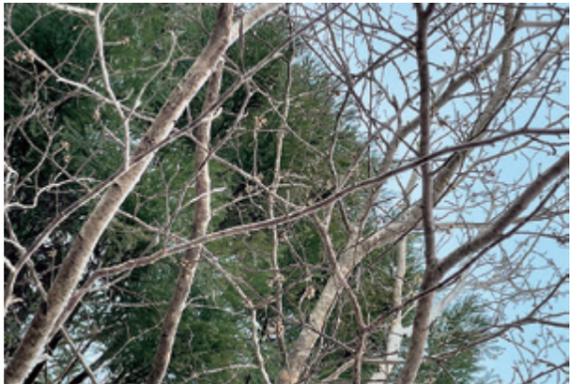
オオイヌノフグリが一面に咲いて、小宮地区の農地の畔(あぜ)が小花柄になっていました。枯れ草を押し分け顔を出した野の草も、小さな葉を精一杯に広げていました。芽吹きの中です。



3月25日、ひと足先に大倉地区で咲いていた梅の花



早春の空の色にほんのり染まるはやま湖



草野地区の県道沿いで春を告げるマンサクの花

が、早春に咲くことから、「まず咲く」が転じてマンサクとなったという説があるそうです。冬枯れの林で真っ先に、黄色い花を咲かせます。金縷梅(きんるばい)の別名もあります。

雪が解け、マンサクの花が林でそっと咲いた頃、村で一番春が早い大倉地区では、梅の花がほころび、はやま湖が少し霞んだ空の色を映していました。湖畔はこれから芽吹き、淡い緑にどんどん染まっています。

牧草地や野原でも、野の草が一斉に小さな葉を広げ始めました。行きつ戻りつ春の歩みに、しびれを切らしてはいたはずですが、オオイヌノフグリもかわいらしい花をポツポツと開いて、気持ちよさげに陽の光を浴びていました。花咲き乱れる春本番が、もうそこまで来ている。

雪解けが進み、日に日に春らしさが実感できるようになりました。

3月中は寒の戻りが厳しく、進みかけていた春の歩みが、何度も後戻りをしました。お彼岸中の22日にも、名残り雪が降りしきり、あつという間に村全体を真っ白に染めました。

飯舘の春を告げるのは、「マンサクの花」です。マンサクには「満作」「万作」という縁起のよい漢字があてられます。語源は明らかではありません。